

特集
高知県版・南海地震
トラフ巨大地震による
被害想定公表について

県は5月15日、マグニチュード(M)9クラスの南海トラフ巨大地震が起きた場合、津波や建物倒壊による本県の死者は最大で4万2千人にのぼるなどとする県独自の想定を公表し、市町村別の死者数などを初めて示しました。

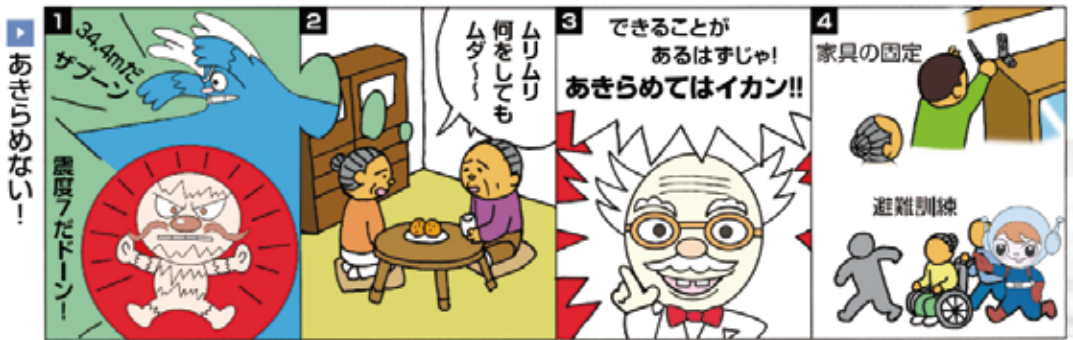
今回被害想定を公表した目的は以下の3つです。

- ① 県が、地震・津波対策を実施するにあたり、対象とする地震動と津波を推計し、それに基づき被害想定を行うことで、地域防災計画や南海地震対策行動計画など、県の取り組み各種防災対策の前提とする。
- ② 被害規模を明らかにすることで、市町村の防災対策の検討や、県内における市町村の相互支援の検討に活用するための基礎資料とする。
- ③ 具体的な被害軽減効果を示すことで、防災対策への県民の理解を深めるとともに、自助・共助の取り組みを促進する。

町内における最大被害想定としては左表のとおりです。

	最大想定 ※住宅耐震化率約74% ※家具転倒防止対策実施率20%	対策後 ※住宅耐震化率約100% ※家具転倒防止対策実施率100%
死者	140	10～
建物倒壊	130	10～
火災、土砂災害	10	—
負傷者	1,100	120～
建物倒壊	1,100	120
火災、土砂災害	10～	—
全壊建物	2,100	130
揺れ	1,900	130
液状化	40	—
火災、土砂災害	160	—

(注) 今回の被害想定は、昨年12月に公表された【県版第2弾】南海トラフ巨大地震による震度分布などの予測を基に、被害の規模を推計したものです。



町民の皆さんへ

南海トラフ巨大地震による揺れと津波の対策を具体的に進めるためには、対象となる

地震・津波がどの程度のものなのか、具体的なイメージを持つ必要があります。そのため、東日本大地震で得られた最新の知見に基づき、現時点で最大クラスと思われる地震・津波について想定を行いました。

最大クラスの地震・津波の発生確率は極めて低いもののように思われるかもしれませんが、地震・津波はこの想定どおりに起こるとは限りません。また、いつ発生するかについても現在の科学をもってしても正確には分かりません。想定はあくまで可能性の一つであることを認識する必要があります。

町民の皆さんには、いたずらに恐れることなく、かといって油断することもなく、地震・津波の特性を正しく理解し、きちんと備えをしていただきたいと思います。「正しく恐れる」ことが重要です。

町においては、津波による被害は想定されていません。今後の防災対策としては、揺れに対する備えが非常に重要となります。

自分の身を守ることができなければ、家族や隣人、地域の方々の助けることはできません。今一度各家庭での揺れに対する備えをお願いします。

